

大阪 安定入荷と需要減で上値の重たい展開

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は保合い商状が続いている。今月は生産低迷に伴って需要自体が少なく、来週からの祝日を前にしても、電炉側に入荷面の焦りが一切見られないことにより、東京製鉄の上げ改定の影響を受けにくい展開といえそうだ。18日時点での地区実勢値はH2が3万8500~4万円(一部上値4万500円)、新断バラが4万2500~4万3500円(同4万4000円)、鋼ダライ粉バラが3万4500~3万7000円見当で推移している。

先週13日から東京製鉄岡山および九州工場が約半年ぶりに買値を引き上げたのに対して、地区内ではここまでの追随が8社中1社のみにとどまるが、同社の予想外ともいえる上げ改定は電炉側の値下げの抑止力となり、先行きへの不透明感を解消させている。こうした

中、湾岸筋の調達意欲に異なりが生じつつ、引き合いが継続しており、市中からは電炉側に並行して、出荷に自由の利く湾岸へコンスタントに出荷を振り向けている。これにかねてからの市中発生難も重なって、荷余り感が生じているような環境でもなく、「湾岸の調達が強まれば、品種によっては一時的なタイト化の可能性も出てくるのでは」(ヤード業者筋)との声が聞かれる。

ただ、今月前半は荷止めや制限強化が重なった影響により、フリー荷受けの電炉筋では好調な入荷を保ち続けてきた。一部では炉休を理由に、ほぼ買い止めに継続しているほか、全体的な生産量の減少に伴って、後半以降も安定した入荷を取り込めているようだ。東京製鉄の値上げが荷動きに変化を及ぼすには至っておらず、市況は上値の重たい展開となっている。

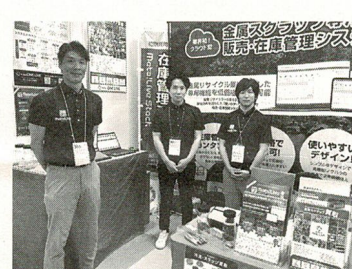
ONE LIVE、国際フロンティア産業メッセ2025に出展 リサイクルを周知

(兵庫) 金属リサイクルやアプリの開発を手掛けるONE LIVE(ワンライブ、本社=兵庫県尼崎市、土肥容高社長)は、神戸国際展示場で開催された「国際フロンティア産業メッセ2025」に出展した。

同イベントは、モビリティ、バイオ、DXなど未来を拓く技術を体感でき、出展社数は500を超える西日本最大級の総合展示会となる。

今回は「金属リサイクル業にITの力を!!」をテーマに出展。ブースではレアメタル・レアアース、汚泥・スラッジなどのリサイクル事業を分かりやすく紹介するため、リーフレットや超硬スクラップなどを展示した。このほかでは、スクラップの在庫管理システム「メタライブストック」を体験できる実演スペースを設けた。同システムは、会社が保有するスクラップの情報と在庫の一元管理を目的に開発されたもの。活用することで、在庫の総重量、原価単価の平均、原価の

合計金額などを容易に把握することができる。さらには品種別のほか、出荷の準備中、出荷済などの状態にあるスクラップの重量や原価単価なども確認することが可能だ。



出展したブース ⑥土肥社長

期間中は、出展を周知していた金属スクラップディーラーが多数来場し、同システムの魅力をPRした。また他の出展企業も来場し、スクラップの買い取りについて相談を受けていた。

出展を終え、土肥社長は「普段、出会えないような製造業者と交流し、リサイクルを周知できたことが何よりの成果だ。これからも情報発信に努め、リサイクルやアプリを広めていきたい」と話す。

平林金属、新球場でプレオープンマッチを開催

(岡山) 総合リサイクルディーラーの平林金属(本社=岡山県岡山市、平林実社長)は、リニューアル工事を進めている「新HIRAKINライズ球場」(岡山市北区)において、グラウンドエリアの先行完成に伴い、10月19日にプレオープンマッチを開催することを公表した。当日は観覧無料で一般公開され、9時30分にオープニングセレモニーが行われる。また球場の紹介や平林社長のあいさつのほか、始球式の開催も予定している。

同球場は同社のソフトボール部の本拠地として2001年に開設し、これまで多くの選手たちに親しまれてきた。今回のリニューアルは約11年ぶりとなり、2026年2月に完成予定となっている。

当日の試合は10時30分に「平林金属Peachblossoms(女子ソフトボール部)対IPU・環太平洋大学女子ソフトボール部」、13時に第二試合「平林金属男子ソ



プレオープンマッチの詳細

フトボール部 対 住吉工業SBC」を実施する。来場や当日の詳細に関する問い合わせ先は平林金属ソフトボール部事務局の電話086-246-0011まで。